

木更津工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	人間と文化	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	機械・電子システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	なし (必要に応じて、随時プリントを配布する。)						
担当教員	田嶋 彩香						
到達目標							
1. 基本的な文学理論を習得し、文学作品を多角的に捉える力を見につける。 2. 資料を活用しながら、文学作品の奥深さを追究し、そこから見える文化を、自らの力で発見することができる。 3. 調査・発表を通じて人々の生活や文化を多角的に捉え直し、自らの考えを深めてわかりやすく伝えることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	課題テーマに基づき、人々の生活や文化を多角的に捉え直し、独自の観点で調査することができる。		課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができる。		課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができない。		
評価項目2	調査や発表の内容を精緻にまとめ、他者に強く訴える文章を書くことができる。		調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができる。		調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができない。		
評価項目3	異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行い、実践的な活動につなげることができる。		異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができる。		異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	調査やグループディスカッションを通じ、地域や社会が抱える諸問題について、解決に向けた具体的な提案をすることを目標とする。 そして可能であれば、実践的な活動にも挑戦したい。						
授業の進め方・方法	①基本は、プリントやプロジェクター等を使って授業を行う。 ②授業のなかで課題を提示し、調査を踏まえ小レポートを書いてもらう。 ③小レポートをもとにグループごとに議論と調査を深めていく。 ④議論と調査に基づいて発表を行い、レポートにまとめる。 ※なお試験は実施せず、発表については相互評価を行う予定である。						
注意点	①専攻分野のみに固執することなく、社会的な観点から様々なものの見方や考え方に興味・関心を持つことが大切である。 ②調査・発表では、伝え方を工夫し、独自の視点から新しい発見と具体的な提案を目指してほしい。 ③授業90分に対して180分以上の時間をかけてグループで調査や討議を重ね、プレゼン等の準備を行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス			授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握・理解する。	
		2週	作者は神様ではありません!? 志賀直哉「小僧の神様」			言葉と意味の間にある断層を意識しながら、「<作者>&<読者>とは何か?」について理解する。	
		3週	都市が生む欲望とは? 田山花袋「少女病」			「郊外の誕生」および「文学と都市空間」について理解する。	
		4週	言葉で女装できますか? 太宰治「千代女」			<語り>に注目をしながら、言葉による性差の構築を理解する。	
		5週	グループによる調査と議論			情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。	
		6週	グループ発表①			グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。	
		7週	グループ発表②			グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。	
		8週	映画鑑賞			対象作家原作の映画を鑑賞し、そのテーマについて自分の意見をまとめる。	
	4thQ	9週	自筆原稿に挑む! ① 樋口一葉「たけくらべ」			自筆原稿を、自身の力で活字に組み直ししながら、作品の内容理解を深める。	
		10週	自筆原稿に挑む! ② 樋口一葉「たけくらべ」			自筆原稿を、自身の力で活字に組み直ししながら、作品の内容理解を深める。	
		11週	読者は何を讀んでいる? 谷崎潤一郎「夢喰ふ虫」			小説における挿絵の意義を追究しながら、挿絵をどう読むか? 自分なりの考えを養う。	
		12週	グループによる調査と議論			情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。	
		13週	グループ発表③			グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。	
		14週	グループ発表④			グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。	
		15週	総括			各グループの発表内容を振り返り、包括的な問題点を把握する。	
		16週	レポート返却			レポート評価に関するポイントを確認する。	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	40	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	40	0	0	40	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0